

次世代農林水産業の担い手育成事業

- 背景**
- 安全・安心な食料の持続的な生産に関する学習と先端技術に対応した学習の必要性が高まっている。
 - 市場動向の分析や新たな顧客を創出する柔軟な経営マインドを醸成する学習の充実が求められている。
 - 新規就業希望者の確保・育成に対するニーズは依然として高い。

<これまでの成果>

- デザインシンキングや先端技術活用による農業に対する興味関心の高まり
⇒農業系9校全体37.0%、マスター・ハイスクール指定校63.0%
- 先進的農業者からの学び等により高卒新規就農者数が増加
⇒R2:9名 R3:8名 R4:21名

<課題>

- 先端技術等を導入した学習の水平展開
⇒大分東・久住高原の2校から9校全体へ
- 経営に関する学習が不足傾向
- 就農希望者の安定的な輩出

<今後の具体的取組>

- 外部講師活用の工夫
- 先端技術の習得
- 生産現場での体験・見学
- 地域産業との連携

目的 時代のニーズに対応した地域の農林水産業を担う人材の育成

取組① 専門的な知識と技術を高める取組

○生産者・企業等の連携による実践的な技術研修

- ・安全かつ効率的な食料生産の実践
⇒GAPやHACCP手法の学習
⇒農業用ドローン等のスマート農業に関する学習
- ・持続可能な林業・水産業に関する研修(日田林工、海洋科学)
⇒先進地視察や現場実習による専門技術研修

○くじゅうアグリ創生塾における研修

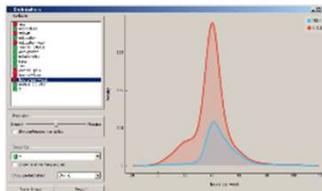
- ・多様な農業経営やブランド力を高める経営戦略等を学ぶ研修
- ・農業技術研修、6次産業化技術研修、資格取得研修
- ・農業大学校や4年制大学農学部等への進路対応研修
- ・農業の裾野を広げる研修(対象:小中学生及び保護者)
- ・日本を代表する法人等からグローバルな視点を学ぶ研修
⇒No.1から学ぶ、星空アグリ討論会、国外研修等

【R4受講者延人数】

- ・先進経営者等による研修
781名
- ・先端技術・グローバル研修
1,056名
- ・研修満足度92.5%

○マスター・ハイスクール事業(R3~5年度)の水平展開

- ・デザインシンキングの手法を用いた課題解決スキルの育成
⇒アイデアソン等による課題の発見と解決
- ・データサイエンスを取り入れた経営感覚の育成
⇒分析ツールを用いた市場動向調査
⇒スマート百葉箱等による生産環境のデータ化と分析
⇒画像認識による果実の等級判別



取組② 地域に根ざした深い学びの実践

○地域の生産者等と連携した課題研究

- ・生産現場の課題に関する学習
⇒現場視察:地域の生産法人、農家等
- ・課題解決につながる技術や商品の開発研究及び地域への研究成果還元
⇒学校ごとの発表会を地域等に公開

○学習成果の発表による学校間交流

- ・合同成果発表会における学びの深化
- ・地域の普通科等と連携した探究的な学びの交流



○時代のニーズに対応した農林水産業の担い手の育成

《目標値》

- ・農林水産関係の就職・進学に対する関心が高まった生徒の割合【40%】
- ・農業生産法人等への就職【15名以上】
- ・農業大学校や就農研修施設等への進学【25名以上】
- ・管理・経営を志す4年制大学農学部等への進学【10名以上】